

ふるさと 資料紹介

＝(74)＝

史料と地名からみた

地区の歴史29

三和(三)

三和町の旧川浦村は、かつては尾張藩領であり、一七世紀半ばの記録(正保郷帳)によると、田一五〇石余、畑三七石余、山三石、計一九〇石と記録されています。寛政年間には、戸数八〇、人口二六六人でした。人口に比べて田畑の割合が少なく、まきを作り下麻生や石神の間屋へ売ることもありました。

川浦は古くから交通上の重要な中継地で、太田から神淵・金山・飛騨方面への文書や荷物の送路は、きまって川浦を経由していました。一般の通行人も飛

騾川沿いの急峻な道をさけて通ったようで、今より人の往来は多かったと思われる。水市に立つ道しるべには、「ひだりなごやみち」と刻まれています。この街道が、名古屋まで通じる主要な街道であったことがわかります。



▲川浦の水市にある道しるべ

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

(平成九年七月分)

○木曾川で使用したササ舟 一点
(伊藤千尋さん/中富町)

計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内/内四〇八)まで情報をお寄せください。